

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小田原市市民ホール	階数	地上4F、地下1F
建設地	小田原市本町一丁目138番6ほか	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,750 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2021年4月6日
敷地面積	9,820 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 環境デザイン研究所
建築面積	5,079 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月6日
延床面積	8,909 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 環境デザイン研究所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p>	<p><b>標準計算</b></p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記① オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Qのスコア = 4.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 4.2</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.5</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 4.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LRのスコア = 3.0</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 2.4</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.8</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>・環境負荷の低減、自然環境の保全を図るため、室内外環境への配慮・エネルギー使用の合理化・建設資材・資源への配慮等総合的に計画を行った。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・劇場は遠音に留意し音区画を形成した。スタジオは防振遮音構造として防音屏を採用した。</p> <p>・屋根面は外断熱とし、また内断熱仕様の強化により、外皮負荷の低減を行った。</p> <p>・換気量を十分に確保し、室内CO<sub>2</sub>濃度の低減を図った。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>・海に近接している為、耐候性の高いガルバリウム鋼板製の屋根材を採用し、塩害により錆びの起きやすい仕上はフッ素塗装とした。</p> <p>・外部のアルミ製建具は、塗膜厚を上げる等、維持管理に配慮した設計を行った。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>・景観シミュレーションを行い、良質な景観形成のための検討を十分に行った。</p> <p>・お堀端通り側へ広場や庇下の空間を確保する、既存樹木を保全する、劇場部の周囲に低層部を配して徐々にセットバックする建物形状として圧迫感を軽減する、抑えた色合いの勾配屋根の採用、凹凸のある外壁面により陰影を生む、等の配慮を行い、周囲のまちなみや風景にバランス良く調和させた。</p> <p>・既存樹木の保全、植栽により良好な景観を形成した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>・EHPの高効率機器、全熱交換型換気扇の採用により、省エネルギーを図った。</p> <p>・電力使用量を系統毎に監視した。</p> <p>・床吹き出し空調システムを採用し、平準化することにより、冷暖房の負荷を低減した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>・リサイクル材、ノンフロン材の採用により、環境へ配慮した。</p> <p>・雨水利用、節水器具、擬音装置の採用により、節水を図った。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>・屋外照明にLED照明を採用し、点灯時間を適切に管理する。</p> <p>・夏季の卓越風を把握し、建物形状としての配慮を行った。</p> <p>・雨水流出抑制を実施した。</p> <p>・管理用車両、荷解き用車両の駐車スペースの確保を行った。</p> <p>・透水性舗装の採用を行った。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される